養育認知が日常的な向社会的行動に与える影響

—共感性を媒介して—

○須田望¹・川端一光²

(¹ 明治学院大学大学院心理学研究科・² 明治学院大学心理学部)

キーワード：養育認知・共感性・向社会的行動

The effects of Perceived parenting on everyday Prosocial behavior

Nozomi SUDA¹ and Ikko KAWAHASHI²

(¹ Graduate School of Psychology, Meijigakuin Univ., ² Faculty of Psychology, Meijigakuin Univ.)

Key Words: perceived parenting, empathy, prosocial behavior

目 的

他者の利益を意図する行動としての向社会的行動は、円滑な社会生活を送る上で重要な役割を果たしていると考えられる。さらに近年、家族、友人・知人、他人に分けた新しい向社会的行動尺度が作成されており、対象によって異なる向社会的行動を捉えるための研究が行われている。

これまでの研究においては、権威的養育態度が共感性を媒介し、対象別の向社会的行動に影響を与えることが示されている (Mesurado ら, 2017)。一方、我が国において、対象別の向社会的行動を扱う研究はほとんど行われておらず、共感性と対象別の向社会的行動に関する精緻な検討も行われていないため、このようなモデルの存在は明らかにされていないのが現状である。また、親から見た子どもの育て方を測定する養育態度ではなく、子どもから見た親の子育てを測定する養育認知の観点が重要であり、養育認知が共感性に影響を与えることが浅野ら (2016) によって明らかにされている。しかし、養育認知と対象別の向社会的行動を扱った研究もこれまで行われていない。

そこで本研究では、養育認知を説明変数、共感性を媒介変数、対象ごとの向社会的行動を目的変数としたモデルを検討することを目的とした。

方 法

関東圏の大学生 309 名 (男性 66 名, 女性 243 名) から得られたアンケート調査への回答を分析対象とした。

また、養育認知の測定に養育認知尺度 (姜ら, 2006)、共感性の測定に日本語版対人反応性指標 (日道ら, 2017)、日常的な向社会的行動の測定に対象別他行動尺度 (小田ら, 2013) の 3 尺度を利用した。それぞれ 5 件法による回答であった。

分析においては、オープンソース・フリーソフトウェア R パッケージ lavaan を用い、構造方程式モデリングを適用した。

結 果

これまでの研究から Davis ら (1994) の組織的モデルを踏まえ、浅野ら (2016) および Mesurado ら (2017) を参考に、養育認知を説明変数、共感性を媒介変数、向社会的行動を目的変数としたパス解析モデルを作成し、データへの適合を試みた。各種指標からモデルの適合が示唆されるものであると判断し、モデルの観測変数などを割愛した潜在変数間の有意なパスを描いた結果を示した (Figure 1)。

受容的および統制的な養育認知は共感的関心を媒介し、友人・知人に対する向社会的行動への間接効果を持っていた。さらに、受容的および統制的な養育認知は家族に対する向社会的行動への直接効果も持っていた。同様に、視点取得は共感的関心を媒介し、友人・知人に対するわずかな間接効果および他人に対する向社会的行動への直接効果を持っていた。受容的および統制的な養育認知の相関係数、家族、友人・知

人および他人に対する向社会的行動の誤差変数間の相関係数の値は高いものであった。一方、分散説明率は高い値ではなかった。

Figure 1 共感性から対象別の向社会的行動への共感性媒介モデル

考 察

養育者が子どもの意図を充足させ、かつ子どもにとって良いと思う行動を促したことに對する子どもの養育認知によって、共感の感情的側面として相手と同様の感情を考える力が身につく、友人や知人という身近な人への思いやりある行動を促すことが考えられる。一方、このような子どもの養育認知は共感する過程を経ずとも家族という最も近い人に対する思いやりある行動を生起させることが示唆できる。

さらに、共感の認知的側面として相手と同様の視点に立つことで、相手と同様の感情を考えることが促され、友人や知人に対する思いやりある行動へと至ることも示唆できる。

養育認知が視点取得に寄与していないことや、視点取得が他人に対する向社会的行動のみに寄与していた点はこれまでの研究と一致していない点であったが、本研究の結果は、我が国の大学生における対象別の向社会的行動への養育認知と共感性の働きの違いを示すものであった。対象別の向社会的行動の誤差変数間に高い相関がみられたことや本研究で想定できなかった変数も考慮に入れ、今後さらに向社会的行動を対象別に捉える研究を行う必要があるだろう。

引用文献

- 浅野 良輔・吉澤 寛之・吉田 琢哉・原田 知佳・玉井 颯一・吉田 俊和 (2016). 養育者の養育態度が青年の養育認知を介して社会化に与える影響. 心理学研究, 87, 284-293.
- Davis, M. H., Hull, J. C., Young, R. D., & Warren, G. G. (1994). The heritability of characteristics associated with dispositional empathy. *Journal of Personality*, 62, 368-391.
- Mesurado, B. & Richaud, M. C. (2017). The Relationship Between Parental Variables, Empathy and Prosocial-Flow with Prosocial Behavior Toward Strangers, Friends, and Family. *Journal of Happiness Studies*, 18, 843-860.